

# エコアクション21 環境経営レポート

2020年度(2020年4月～2021年3月)



“大切な地球の環境、私たちが守ります。”

2021年6月

JAPAN ENVIRONMENT RESEARCH CO., LTD.  
株式会社 **日本環境調査研究所**

# 目 次

1. 組織の概要、対象範囲 -----	P1
2. 環境経営方針 -----	P4
3. 環境経営目標と結果 -----	P5
4. 環境経営計画 -----	P9
5. 環境経営目標の実績 -----	P13
6. 環境経営計画の取り組み結果、評価	P15
7. 環境関連法規への違反、起訴等有無	P18
8. 代表による全体評価と見直し-----	P19

# 1. 組織の概要

For Safety

## 1) 事業所名およびEA21代表者名

株式会社日本環境調査研究所  
管理本部長 織田朗史

## 2) 所在地

### 認証・登録範囲

- 本社：東京都新宿区西新宿区6-24-1西新宿三井ビル10階  
技術開発研究所：埼玉県吉川市旭8-3東埼玉テクノポリス内
- ※3青森事務所：青森県上北郡六ヶ所村大字尾鮫字野附345-2 E-1号室  
仙台営業所：宮城県仙台市青葉区本町2-15-1ルナル仙台6階  
福島営業所：福島県南相馬市原町区南町2-90-2  
福島分析ラボ：福島県双葉郡浪江町高瀬字根木内103-1
- ※3柏崎営業所：新潟県柏崎市松波1-20-31ビックウエイブ101
- ※2茨城事務所：茨城県つくば市竹園2丁目-10-8 第三芳村ビル4階  
東京営業所：埼玉県吉川市旭8-3東埼玉テクノポリス内
- ※2横浜事務所：神奈川県横浜市神奈川区栄町3-12パシフィックマークス横浜イースト6階  
静岡営業所：静岡県掛川市南2-16-2 南ビル3階  
浜岡事務所：静岡県御前崎市佐倉5561中部電力(株)浜岡原子力発電所内
- ※1名古屋営業所：愛知県名古屋市千種区春岡1-1-2 YAMAMAN仲田ビル5階B  
大阪営業所：大阪府大阪市中央区北浜4-7-28住友第2号館1階
- ※2福岡事務所：福岡県福岡市中央区天神1-9-17 福岡天神フコク生命ビル4階

注、※1 2020年度新規追加営業所 ※2 親会社事務所間借り人員不在環境負荷なし  
※3 営業拠点のみ常駐人員不在環境負荷なし

## 3) 環境管理責任者、担当者の氏名及び連絡先

環境管理責任者：総務部 荻 守  
環境事務局(担当者)：総務部 澤田佳明  
電話：03-5322-2271  
FAX：03-5322-2272  
E-mail：[mamoru-ogi@jer.tokyo-biso.co.jp](mailto:mamoru-ogi@jer.tokyo-biso.co.jp)

## 4) 事業の内容

1. 一般環境調査業務及び作業環境調査業務
2. 放射性物質取扱施設の管理並びに施設から放出する放射性物質の管理、監視及び測定調査業務
3. 放射線に関する保安全管理業
4. 建物の管工事業、建具工事業、機械器具設置工事業、とび・土工工事業、解体工事業、鋼構造物工事業及び内装仕上工事業(※1)
5. 放射線防護用品、器具の製造及び販売業務
6. 建物の維持管理業務
7. 産業廃棄物処理施設、放射性物質取扱施設等の環境整備、公害防止施設の解体及び搬出等のとび土木工事業務(※2)
8. 労働者派遣事業
9. 医療機器類の販売業務
10. 環境保護・保全及びその管理に関する用品・器具の製造及び販売業務
11. 上記各号に付帯関連する一切の業務

(※1, ※2)建設業に係わる業務は、放射性物質取り扱い事業所がほとんどであり、顧客との秘守義務に抵触するおそれがあるため範囲外と致します。

5) 許可

放射性同位元素等使用許可(原子力規制委員会許可 使第4765号)  
管工事業(東京都知事許可 (特-28)第136585号)  
機械器具設置工事業・建具工事業(東京都知事許可 (般-28)第136585号)  
とび・土工工事業・解体工事業(東京都知事許可 (般-28)第136585号)  
鋼構造物工事業・内装仕上工事業(東京都知事許可 (般-28)第136585号)  
労働者派遣事業許可(厚生労働省 派13-080596)  
高度管理医療機器等販売業・貸与業許可(新宿区保健所長許可 29新保衛薬第55号)

6) 登録

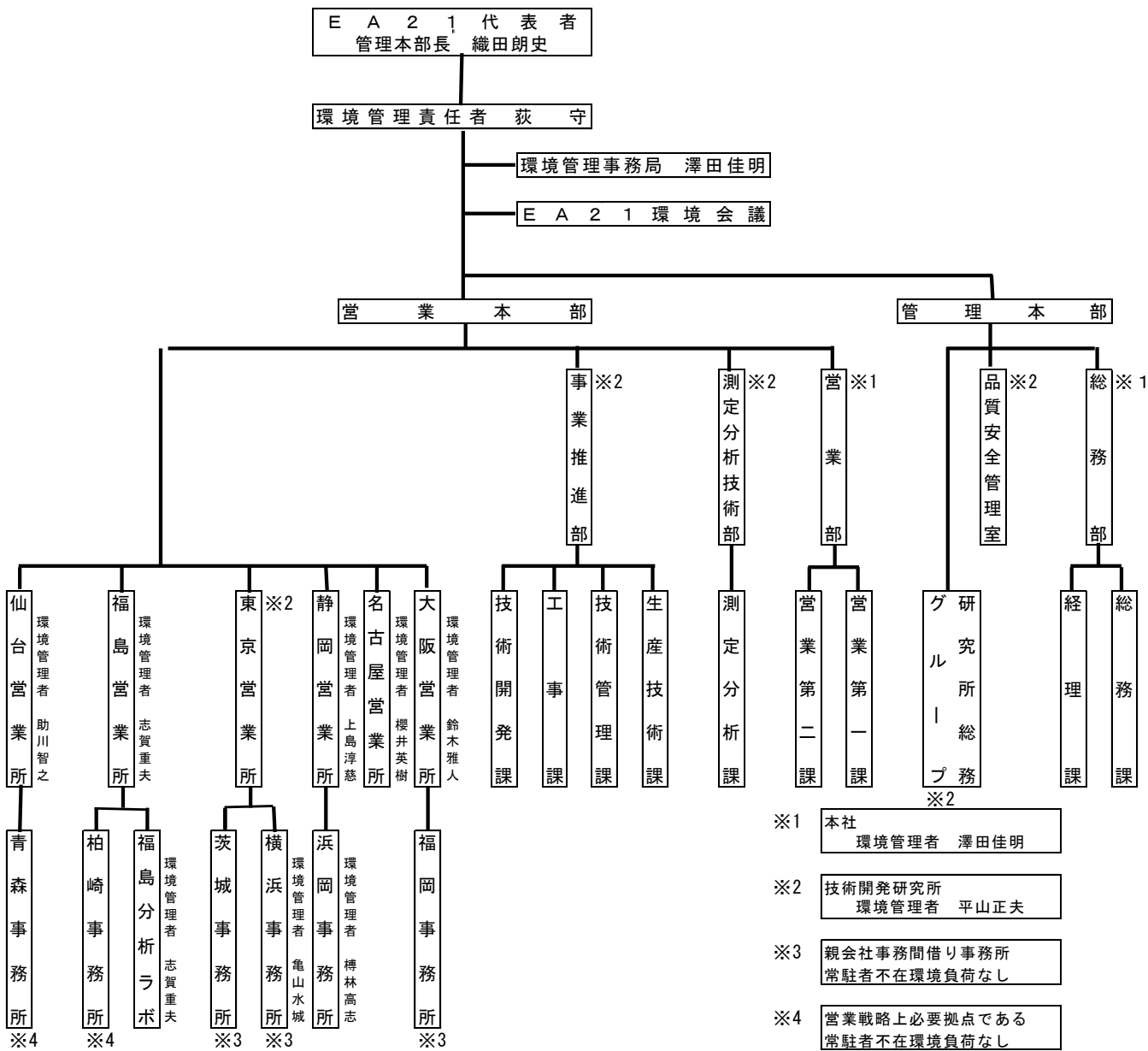
作業環境測定機関(埼玉労働局長登録11-4 第2号の作業場)  
ISO9001認証(作業環境測定)JQA-QM9735  
ISO9001:2015 / JIS Q 9001:2015  
計量証明事業(埼玉県知事 第606号)

7) 事業の規模

活動規模	単位	平成29年度	平成30年度	2019年度	2020年度
売上高	百万円	2,888	2,580	3,209	2,858
従業員	人	141	141	141	138
床面積	m2	2,472	2,701	2,701	2,737

8) 実施体制表

EA21 実施体制



役割	主な責任と権限	
代表者	①環境経営方針の制定 ②環境管理責任者、環境管理者の指名 ③経営資源(人、設備、情報等)の用意 ④EA21取組状況の評価と見直し ⑤環境目標、環境活動計画書策定時の承認	⑥EA21の周知、徹底と教育の計画 ⑦活動計画の討議、目標のフォロー ⑧手順書の承認 ⑨経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	①EA21の構築と運用 ②遵法性評価 ③EA21環境会議委員長 ④環境目標と環境活動計画の実施状況検討 ⑤コミュニケーション記録、是正・予防記録の承認 ⑥代表者にEA21の運用状況の報告 ⑦緊急事態の訓練責任者 ⑧教育訓練の実施責任者 ⑨文書管理 ⑩対外折衝	環境管理者 (副環境管理者)  一般従業員
		①事業所に関する目標、活動計画の実施責任 ②是正・予防の対策立案と実施責任 ③緊急事態への対応  ①目標、活動計画のうち事業所に関するものの実施 ②省エネ、分別排出、薬品類管理等決められた事項の実施 ③緊急事態への対応

## 2. 環境経営方針

For Safety

### 基本理念

株式会社日本環境調査研究所は、経営理念「大切な地球の環境、私たちが守ります。」に基づき地球規模の環境保全を実現するために「放射線関連事業活動と環境との調和」を重要課題として、全従業員の参加による環境保全を配慮した事業活動に努めます。

### 基本方針

株式会社日本環境調査研究所は以下の方針に基づき、事業における活動、製品及びサービスの提供と環境との調和を目指します。

- 1) 環境経営目標及び環境経営計画を定め、事業活動においてその実現を図ると共に、環境経営システムを構築・運用して継続改善に努めます。
- 2) 環境関連の法規則、条例及び地域との協定等その他の要求事項に適切に対応し、遵守します。
- 3) 環境経営システムの構築・取り組みを適切に実行するために、従業員に必要な教育・訓練を実施します。
- 4) 環境経営レポートを作成し、公表します。
- 5) 社外からの環境に対する苦情や要望を受け付け、必要な対応を行います。
- 6) 重要対策として以下の項目に取り組み、地球温暖化防止・資源の有効活用・環境汚染の予防推進に努めます。
  - ①温室効果ガスの排出量削減に努めます。
  - ②廃棄物の削減に努めます。
  - ③排水を管理し、地域の環境の改善と保全に努めます。
  - ④環境関連物質を管理し、使用の削減に努めます。
  - ⑤グリーン購入を推進するとともに、使用量そのものの削減に努めます。
  - ⑥商品、資材納入業者との協力による環境配慮推進に努めます。

2020年7月1日

株式会社日本環境調査研究所

エコアクション21代表者

管理本部長 織田朗史

### 3. 環境経営目標と結果

For Safety

#### 1) 基準年と環境経営目標設定について

環境経営目標は、各項目の総量から設定している。

- ①目標基準値は2019年4月～2020年3月までの1年間の総量として、二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用量、総排水量、コピー廃棄物排出量、紙使用量、トルエン使用量を1%削減を目標値として設定した。
- ②化学物質（PRTR対象物質）アミン、キシレンの使用量、保管量を把握する。
- ③製品（報告書）不具合発生件数について把握する。
- ④グリーン購入を推進し、グリーン購入比率について1%アップを目標値とする。
- ⑤運用期間 2020年4月～2021年3月 1%削減（基準値対比）  
本年度は青森営業所、柏崎営業所が常駐者が不在となり、管理者不在となるため、活動休止とする。

（全体）

	項目	単位	基準値 (2019年度)	前年度実績値 (2019年度)	目標値(基準-1%) (2020年度)	実績値 (2020年度)
	CO2総排出量	Kg-CO2	235,655	235,655	233,289	234,237
エネルギー消費	電気使用量	Kwh	248,407	248,406	245,922	253,451
	ガソリン使用量	l(リットル)	47,690.85	47,690.85	47,213.94	45,960.81
	軽油使用量	l(リットル)	55.40	55.40	54.85	0
	ガス使用量	m3	11.4	11.4	11.3	16.5
	灯油使用量	l(リットル)	464.00	464.00	459.36	501.58
	総排水量	m3	690.0	690.0	683.1	916.6
	廃棄物排出量	ton	4.267	4.267	4.236	4.565
物質	コピー紙使用量	枚	1,220,500	1,220,500	1,208,295	1,143,000
化学物質	トルエン使用量	Kg	300.0	300.0	297.0	450.0
	アミン使用量	Kg	-	16.1	-	13.9
	キシレン使用量	Kg	-	0.2	-	0
製品	証明書・報告書のトラブル等の件数	件	-	0	0	3
	再サンプリング依頼件数	件	-	0	0	0
購入	グリーン購入比率 (グリーン購入額)	% (円)	23.7	23.7 (1,142,083)	24.7 (1,256,291)	30.8 (1,164,030)

※ 報告書不具合件数は不適合製品件数とした。

二酸化炭素換算係数：地球温暖化対策の推進に関する法律施行令（平成11年政令第143号。一部改正平成18年4月1日施行）および特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する政令（平成18年3月経済産業省、環境省令第3号）を基に環境省が作成した「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に準じる。

# 3か年の環境経営目標

For Safety

## 1) 基準年と3か年の環境経営目標設定について

環境目標は、各項目の総量から設定している。

- ① 目標基準値は2019年4月～2020年3月までの1年間の総量として、二酸化炭素排出量、電気使用量、ガソリン使用量、総排水量、コピー廃棄物排出量、紙使用量、トルエン使用量を毎年1%削減を目標値として設定した。
- ② 化学物質（PRTR対象物質）アミン、キシレンの使用量、保管量を把握する。
- ③ 製品（報告書）不具合発生件数について把握する。
- ④ グリーン購入を推進し、グリーン購入比率について毎年1%アップを目標値とする。
- ⑤ 運用期間 2020年4月～2022年3月 3%削減（基準値対比）  
本年度は青森営業所、柏崎営業所が常駐者が不在となり、管理者不在となるため、活動休止とする。（但し、福島分析ラボを除く）

（全体）

	項目	単位	基準値 (2019年度)	目標値(基準-1%) (2020年度)	目標値(基準-2%) (2021年度)	目標値(基準-3%) (2022年度)
	CO2総排出量	Kg-CO2	235,655	233,298	230,942	228,585
エネルギー消費	電気使用量	Kwh	248,406	245,922	243,438	240,954
	ガソリン使用量	l(リットル)	47,690.85	47,213.94	46,737.03	46,260.12
	軽油使用量	l(リットル)	55.40	54.85	54.29	53.74
	ガス使用量	m3	11.4	11.3	11.2	11.1
	灯油使用量	l(リットル)	464.0	459.4	454.7	450.1
	総排水量	m3	690.0	683.1	676.2	669.3
	廃棄物排出量	ton	4.269	4.226	4.184	4.141
物質	コピー紙使用量	枚	1,220,500	1,208,295	1,196,090	1,183,885
化学物質	トルエン使用量	Kg	300.0	297.0	294.0	291.0
	アミン使用量	Kg	16	-	-	-
	キシレン使用量	Kg	0	-	-	-
製品	証明書・報告書のトラブル等の件数	件	-	0	0	0
	再サンプリング依頼件数	件	-	0	0	0
廃棄物管理	マニフェスト伝票発行	件	9	-	-	-
購入	グリーン購入額	円	1,142,083	1,256,291	1,370,500	1,484,708
	グリーン購入比率	%	23.7	24.7	25.7	26.7

二酸化炭素換算係数：地球温暖化対策の推進に関する法律施行令（平成11年政令第143号。一部改正平成18年4月1日施行）および特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する政令（平成18年3月経済産業省、環境省令第3号）を基に環境省が作成した「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」に準じる。



## (各所項目別結果)

未達成部分を赤字で表記

項目	単位	(技開研)2020年度		(本社)2020年度	
		年度目標	年度実績	年度目標	年度実績
CO2排出量	kg-CO2	121,937	121,312	5,889	5,683
電気使用量	kwh	169,109	172,353	12,119	11,694
ガソリン使用量	l	17,120.56	16,160.38		
軽油使用量	l	0	0		
可燃ゴミ排出量	ton	2.326	2.356	0.256	0.283
水道使用量	m3	465.3	639.6		
コピー用紙使用量	枚	678,100	627,000	187,600	186,000
トルエン使用量	Kg	297	450		
グリーン購入比率	%			26.9	26.7

項目	単位	(仙台)2020年度		(福島)2020年度	
		年度目標	年度実績	年度目標	年度実績
CO2排出量	kg-CO2	8,875	8,973	30,869	29,305
電気使用量	kwh	7,048	7,656	18,501	18,655
ガソリン使用量	l	2,169.57	2,069.29	8,629.23	7,969.44
軽油使用量	l			54.84	0
可燃ゴミ排出量	ton	0.115	0.070	0.618	0.810
水道使用量	m3			43.5	46.0
コピー用紙使用量	枚	24,700	20,000	83,100	81,000
グリーン購入比率	%	55.9	65.5	19.9	18.4

項目	単位	(静岡)2020年度		(浜岡)2020年度	
		年度目標	年度実績	年度目標	年度実績
CO2排出量	kg-CO2	14917	17,671	6,624	6,214
電気使用量	kwh	5,992	7,381	6,039	5,575
ガソリン使用量	l	5,117.45	6,073.60	1,592.84	1,512.89
可燃ゴミ排出量	ton	0.242	0.178	0.095	0.074
水道使用量	m3				
コピー用紙使用量	枚	28,700	30,000	23,700	14,500
グリーン購入比率	%	11.5	18.5	静岡に計上	—

項目	単位	(大阪)2020年度		(福島分析ラボ)2020年度	
		年度目標	年度実績	年度目標	年度実績
CO2排出量	kg-CO2	18,748	18,163	18,184	20,041
電気使用量	kwh	2,474	2,625	22,639	25,125
ガソリン使用量	l	7,538.47	7,252.99	2,329.39	2,457.22
可燃ゴミ排出量	ton	0.397	0.306	0.141	0.434
水道使用量	m3			174.2	231.0
コピー用紙使用量	枚	121,200	118,000	55,900	60,500
グリーン購入比率	%	42.0	53.1	福島に計上	—

項目	単位	(横浜)2020年度		(名古屋)2020年度	
		年度目標	年度実績	年度目標	年度実績
CO2排出量	kg-CO2	3,431	1,816		5,061
電気使用量	kwh				2,387
ガソリン使用量	l	1,478.94	782.69		1,682.31
可燃ゴミ排出量	ton				0.052
水道使用量	m3				
コピー用紙使用量	枚				6,000
グリーン購入比率	%				0

#### kg-CO2換算係数

2018/4/1

	技術開発研究所	本社	仙台営業所	福島営業所	福島分析ラボ	静岡営業所	浜岡事務所	名古屋営業所	大阪営業所
電気 kwh	0.486	0.486	0.545	0.545	0.545	0.485	0.485	0.485	0.509
ガソリン L	2.32								
軽油 L	2.62								
ガス m3	6.21			6.21	6.21				
灯油 L	2.49								

## 2) 環境経営目標の結果について

2020年度環境保全活動として各項目毎に低減活動を実施し、総二酸化炭素排出総量は目標233,298 Kg-CO<sub>2</sub>に対して948 Kg-CO<sub>2</sub>の増加となり、目標値を未達となりました。その内訳は、今年度より名古屋営業所が増加しており、その増加分5,061Kg-CO<sub>2</sub>が、CO<sub>2</sub>総排出量増加の原因であり、名古屋営業所分を除けば、実質4,113Kg-CO<sub>2</sub>減少となっていました。

車両の燃費(ガソリン車)も12.6km/L→13.6km/Lと向上し、エコカー導入の結果が数値として表れました。

今後も低燃費車(ハイブリッド車)への入替を推進し、継続こして一層のエコドライブを心掛け、環境負荷低減活動を継続していきます。

# 4. 環境経営計画

For Safety

## 1) 二酸化炭素排出量削減

### ① 電気使用量の削減 (事務所共通)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	不必要な時は消灯する。	現場管理者	昼休みの消灯を徹底する。	巡回	毎日
2	空調の適温化を徹底する。	現場管理者	①空調を利用する際の温度チェックを行い、夏季28度、冬季20度を目安とする。 ②クールビズ、ウォームビズ実践する。	巡回	毎日
3	OA機器の小まめな管理を実行する。	現場管理者	長時間不在時には、機器の主電源をOFFにする。	巡回	毎日
4	待機電力のカットを行う。	現場管理者	リモコン使用機器の主電源OFFを徹底する。	巡回	毎日

### (技術開発研究所)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
5	人の居ない区域や部屋の照明・空調を止める。	現場管理者	人の居ない区域や部屋の照明・空調を止めることを徹底する。	巡回	毎日
6	エアコンフィルターの清掃を行う。	現場管理者	エアコンフィルターを年2回清掃する。暖冷房切り替え時	報告	実施時期
7	休日・時間外照明の節約	現場管理者 出勤者	必要最小限の区分で作業するようにする。	報告	毎日
8	給湯器利用の節約	現場管理者 出勤者	冬季以外の利用を制限するようにする。	報告	冬季以外
9	夏季の直射日光を制限する	現場管理者 出勤者	ブラインドの利用等で熱の出入りを調整するようにする	報告	毎日

### ② ガソリン・軽油使用量削減 (本社を除く)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	エコドライブの推進	現場管理者	①急発進、急加速、空ふかしの排除	ヒアリング	毎月
2	始業時、自主点検実施	現場管理者	①始業時の自主点検実施 ②給油時にタイヤ圧チェック	ヒアリング	毎月
3	アイドリングストップの推進	現場管理者	①駐車場内ではアイドリングを停止(条例遵守)	ヒアリング	毎月

### ③廃棄物排出量削減

#### 可燃ごみ排出量の削減（共通）

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	紙類分別リサイクルの徹底	現場管理者	新聞紙、上質紙、雑誌、ダンボール等分別回収を徹底し、可燃ごみ袋に入れない。	巡回	毎月
2	コピー紙の使用量抑制	現場管理者	①使用済みコピー紙の裏をコピーに利用徹底 ②会議資料等両面コピー徹底、電子化、簡素化 ③使用済み封筒等の再利用	巡回	毎月

#### 発生源対策による削減

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	使い捨て製品（紙コップ等使い捨て容器）抑制	現場管理者	①購入を控える。	巡回	毎月
2	廃棄物分別回収による資源化		①紙、ダンボール、金属缶等を確実に分別仕分けする。	巡回	毎月

### ④総排水量削減

#### 水道使用量の削減（技術開発研究所、福島、柏崎）

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	節水活動の推進	現場管理者	①節水の呼びかけ ②水の流し放しをしない。 ③排水管の漏水確認 ④排水処理設備の点検、監視、測定を定期的に行う ⑤節水駒を取り付ける。	巡回	毎月

## 2) 環境関連物質の削減と把握

### ①トルエン使用量の削減（技術開発研究所）

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	定常業務における使用量の削減	現場管理者	①作業環境測定における改良型サンプリング方法を実践、効率化を行う。	報告	毎月

## ②アミン使用、保管量の記録(技術開発研究所)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	定常業務における使用量の把握	現場管理者	使用量および保管量の把握を実施する。	報告	毎月

## ③キシレン使用、保管量の記録(技術開発研究所)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	定常業務における使用量の把握	現場管理者	使用量および保管量の把握を実施する。	報告	毎月

## 3)製品(報告書)不具合発生件数(技術開発研究所)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	報告書作成業務における不具合発生件数	現場管理者	発生件数を把握する。	報告	毎月

## 4)グリーン購入の推進(共通)

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	消耗品等購入についてグリーン購入の推進	環境管理者	エコマーク製品の購入品目、数量、金額について実施する。	報告書	毎月
2	低燃費車両にする	管理責任者	車両入替時に低燃費車両に交換する	ヒアリング	交換時

## 5)施工、設計、製作成果物に関する環境配慮項目検討の実施

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	環境配慮項目についての検討実施	環境管理者	施工、設計、製作成果物の環境配慮項目検討について	検討記録	随時

## 6)教育・訓練の実施

※毎年全社研修会にて実施

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	環境負荷低減活動についての教育・訓練実施	環境管理責任者	環境負荷低減活動の取り組みと活動計画について	実施記録	1回/年

## 7) 内部監査の実施

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	環境負荷低減活動取り組み状況について内部監査実施	環境管理者 責任者	環境負荷低減活動の取り組み状況の確認と問題の是正および予防を行う。原則2部署実施	報告書	1回／年

## 8) 環境会議の開催

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	環境会議の開催	環境管理者 責任者	各所の環境負荷低減活動の結果について四半期毎にまとめ、昨年対比を行う。	報告書	4回／年

## 9) 環境経営活動レポートの作成

### ①環境負荷データ採取の確実な実施

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	各所の環境負荷データ採取を確実に実施する。	環境管理者	毎月の環境負荷データ報告書様式により行う。	報告書	毎月

### ②各所環境負荷データを集計し環境経営レポートの作成

NO	活動項目	責任者	実践事項	チェック方法	チェック頻度
1	環境経営活動レポートの作成	環境管理者 責任者	各所の環境負荷低減活動の結果について年間データをまとめ、環境経営目標の達成評価を行う。	報告書	1回／年 年度終了後作成

# 5. 環境経営目標の実績

For Safety

## 1) 全体結果

### エネルギー消費

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	235,655	233,289	234,237	100.4%	×
電気使用量	kwh	248,406	245,922	235,451	95.7%	○
ガソリン使用量	l	47,690	47,213	45,961	97.3%	○
軽油使用量	l	55	55	0	0.0%	○
総排水量	m <sup>3</sup>	690	683	917	134.2%	×
廃棄物排出量	ton	4.26	4.23	4.57	107.9%	×

### 物質

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
コピー用紙使用量	枚	1,220,500	1,208,295	1,143,000	94.6%	○

### 化学物質(技術開発研究所)

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
トルエン使用量	kg	300.0	297.0	450.0	151.5%	×
アミン使用量	kg	16.1	-	13.9	-	-
キシレン使用量	kg	0.2	-	0.0	-	-

### 製品(技術開発研究所)

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
不適合製品件数	件	0	0	3	-	×

### グリーン購入比率

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
グリーン購入比率	%	23.7	24.7	30.8	124.7%	○

## 2) 技術開発研究所および営業所実績比較(共通項目)

### 技術開発研究所

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	123,169	121,937	121,312	99.5%	○
電気使用量	kwh	170,818	169,109	172,353	101.9%	×
ガソリン使用量	l	17,293	17,120	16,160	94.4%	○
軽油使用量	l	0	0	0	—	○
総排水量	m <sup>3</sup>	470	465	639	137.4%	×
廃棄物排出量	ton	2.38	2.35	2.35	100.0%	×
グリーン購入比率	%	30.8	31.8	41.8	131.4%	○

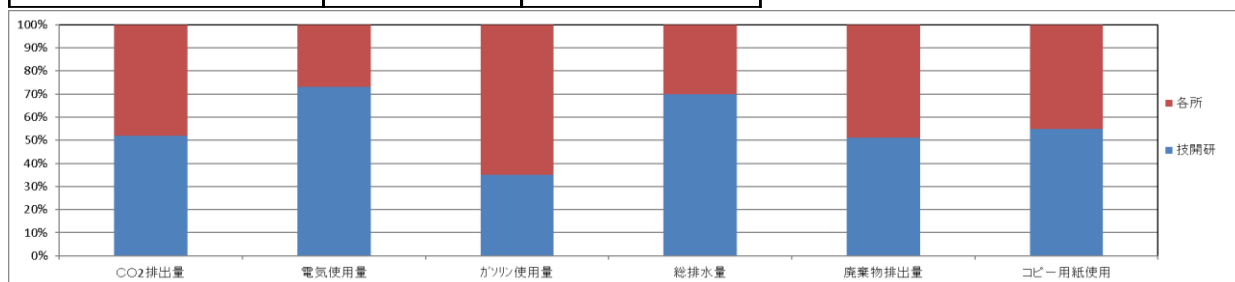
### 各営業所計

項目	単位	2019年度 基準値	2020年度			判定
			目標値	実績値	対目標値	
CO <sub>2</sub> 排出量	kg-CO <sub>2</sub>	112,486	111,352	112,925	101.4%	×
電気使用量	kwh	77,588	76,809	63,098	82.1%	○
ガソリン使用量	l	30,397	30,093	29,801	99.0%	○
軽油使用量	l	55	55	0	0.0%	○
総排水量	m <sup>3</sup>	220	218	278	127.3%	×
廃棄物排出量	ton	1.88	1.88	2.22	117.8%	×
グリーン購入比率	%	20.4	21.4	25.6	119.6%	○

### 技術開発研究所と各営業所項目別割合

#### 2020年度実績値(比率%)

項目	技開研	各所
CO <sub>2</sub> 排出量	52	48
電気使用量	73	27
ガソリン使用量	35	65
総排水量	70	30
廃棄物排出量	51	49
コピー用紙使用	55	45



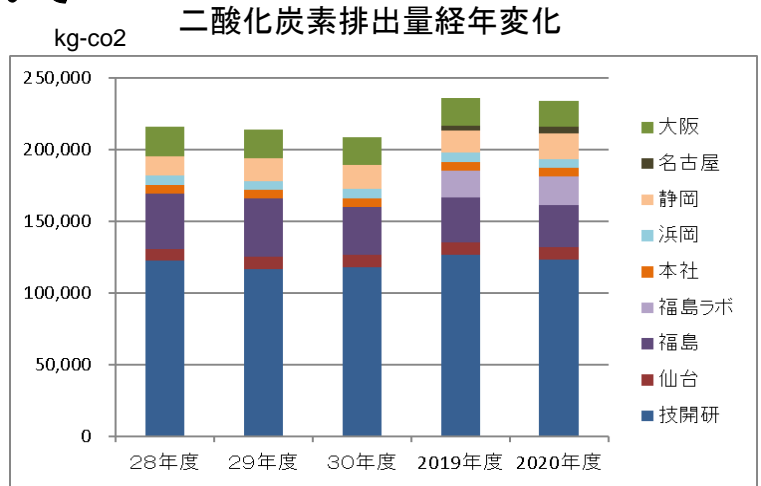


# 6. 環境経営計画の取組み結果、評価

Safety

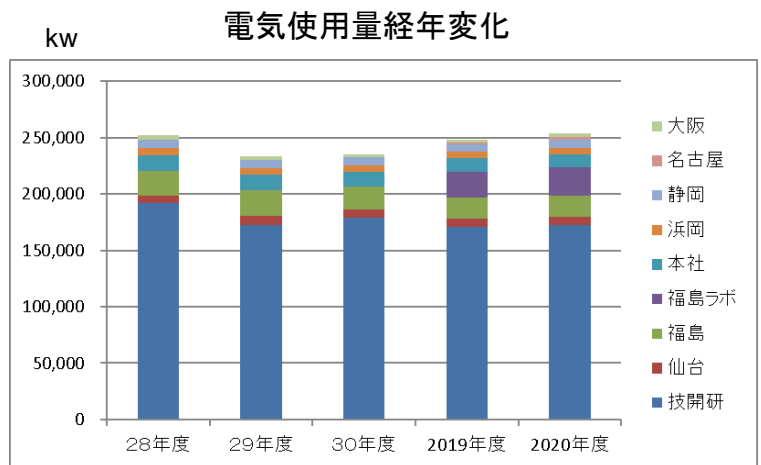
## 1) 二酸化炭素排出量の削減について

2020年度目標値に対して0.4%増の結果となり目標を達成できませんでした。未達成要因としては名古屋営業所増加分が大きく寄与しており、それを除いた場合は減少しているため、環境負荷対策は実質順調に推移していると考えます。



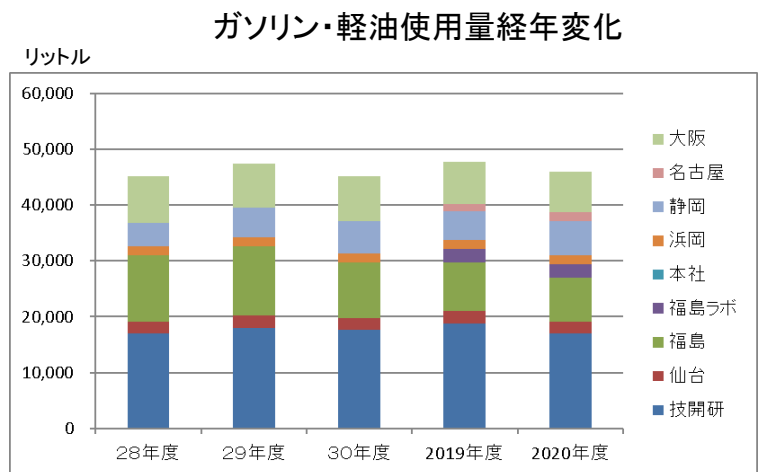
## 2) 電気使用量の削減について

2020年度目標値に対して3.1%減増の結果となり目標を達成できませんでした。未達成要因は、技術開発研究所の目標値に対して3,244kW増、福島ラボ2,486kW増、静岡1,389kW増、名古屋2,387kW増となった結果です。



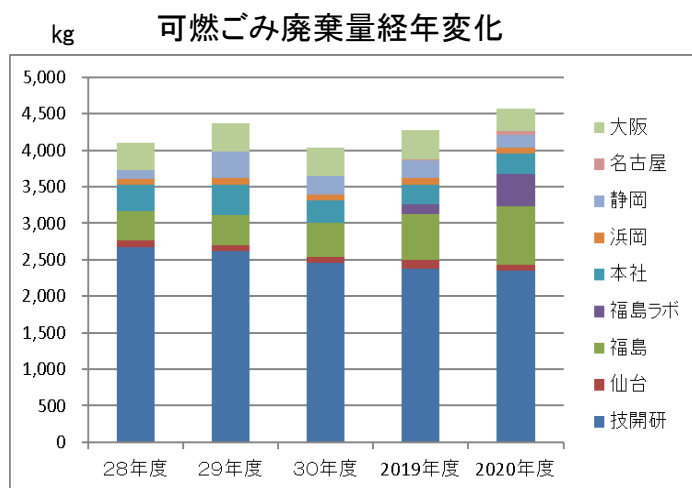
## 3) ガソリン・軽油使用量の削減について

2020年度目標値に対して2.7%減の結果となりました。その原因は低燃費車両導入および全体的に走行距離減少である。技術開発研究所のガソリン使用量は目標値に対して960リットル減少、大阪営業所のガソリン使用量が目標値に対して285リットル減少等により全事業所でエコ運転に努め減少という結果となりました。



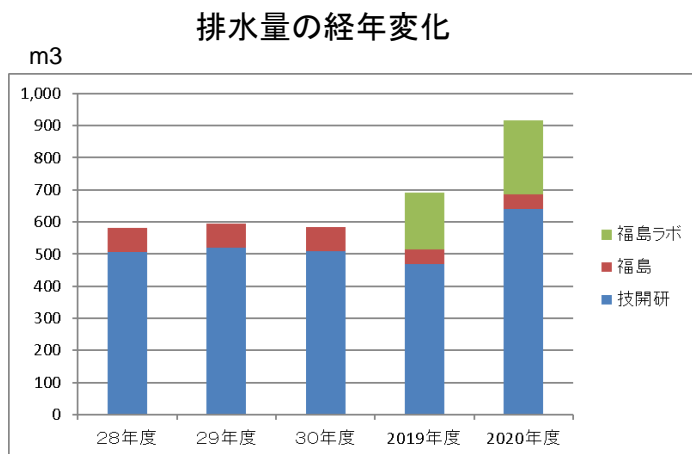
#### 4) 可燃ごみ廃棄量の削減について

2020年度目標値に対して7.9%増の結果となりました。技術開発研究所と本社が微増し、福島営業所、福島ラボでは事務所内作業が目標値より0.485ton増の可燃ごみが廃棄されました。各事業所とも廃棄物の低減・仕分け等を実践にすることにより削減に努めます。



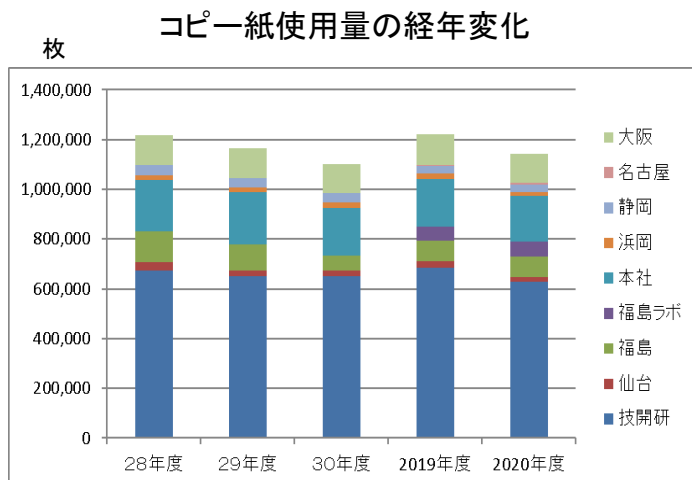
#### 5) 排水量の削減について

2020年度目標値に対して34.1%増の結果となりました。主な要因は主要事業所である技術開発研究所の目標値に対して174.3m<sup>3</sup>増加、福島ラボの目標値に対して56.8m<sup>3</sup>増加したことである。業務内容で変動するが低減対策を今後とも継続することが重要となります。



#### 6) コピー紙使用量の削減について

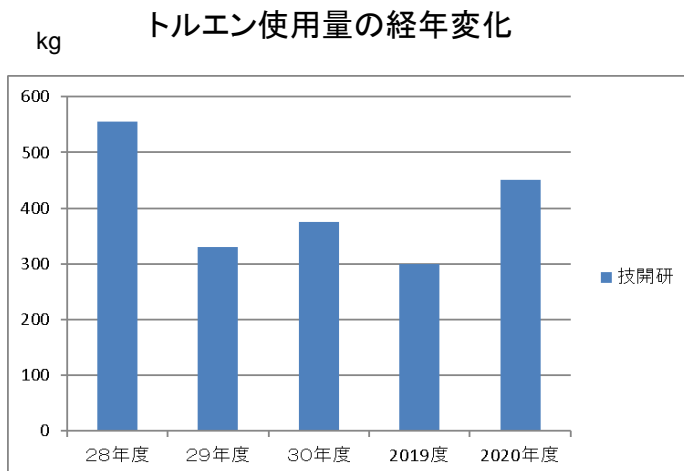
2020年度目標値に対して5.4%減の結果となり目標を達成しました。技術開発研究所、本社、仙台、福島、浜岡、大阪の事業所で目標を達成しました。特に技開研の51,100枚減が影響しました。今後もコピー用紙使用量削減の裏紙利用、ミスコピー防止等の活動を継続し、低減に努めます。



## 7) 環境関連物質使用量の削減について

### ①トルエン使用量について

2020年度目標値に対して52.5%減増の結果となりました。使用量については業務にいよように応じて変動します。今後も低減活動および技術的な改善は継続的に行ってまいります。



### ②アミン／キシレンの使用量について

年間使用量および保管量について調査対象とすることで、適正に管理が行われています。

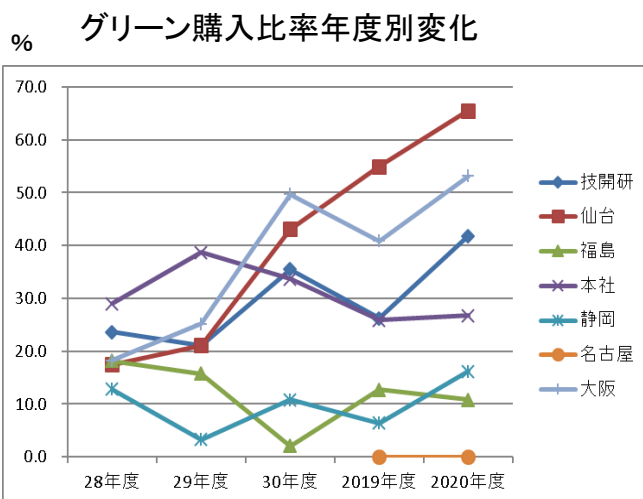
項目	年間使用量(kg)					年度末保管量(kg)				
	28年度	29年度	30年度	2019年度	2020年度	28年度	29年度	30年度	2019年度	2020年度
アミン	20.5	16.9	16.5	16.1	13.9	0.7	2.9	2.9	0.0	24.7
キシレン	0.0	0.4	0.4	0.2	0.0	0.7	0.4	0.0	0.8	8.0

## 8) 報告書不具合件数について

2020年度は、証明書・報告書のトラブル等3件/年、再サンプリング依頼0件/年という結果になりました。今後も前年の発生件数を下回るように各プロセスごとにチェックを実施していきます。

## 9) グリーン購入比率について

2020年度目標値に対して目標を大きく上り達成しました。目標値はグリーン購入比率(事務用消耗品費に対する比率)にしました。グリーン購入については研修をとうして今後も推進してまいります。



## 7. 環境関連法規への違反、起訴等の有無

Safety

### 1) 環境関連法規の遵守状況

関係法規	対象	遵守状況
放射性同位元素等による放射線障害防止に関する法律	放射性同位元素使用許可施設	○
電離放射線障害防止法規則	放射線作業従事者健康診断	○
作業環境測定法	放射性同位元素使用施設	○
廃棄物の処理および清掃に関する法律	産業廃棄物(廃油)	○
吉川市公害防止協定書 大気汚染防止法、騒音規制法、振動規制法 悪臭防止法、水質汚濁防止法、下水道法 埼玉県公害防止条例、吉川市下水道条例	技術開発研究所	○
有機溶媒中毒予防規則	作業環境測定	○
消防法・危険物に関する政令	トルエン貯蔵量	○

### 2) 環境関連法規への違反、起訴等の有無

環境関連法規への違反、起訴はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘はありません。

## 8. 代表者による全体評価と見直し For Safety

### 目標項目毎の指示

項 目	
①CO <sub>2</sub> 排出量	排出総量として0.4%の微増となり、目標達成できなかった。但し前年実績対比では減少しているので環境保全活動は全般的に効果があったと考えられます。今後各所において一段踏み込んだ対策を講じる必要があるのではないかと。
②電気使用量	総電力使用量は、目標値に対して3.1%増となり、目標を達成することができなかった。電気使用量の大半を占める技開研において対目標値3,244kW増加したこと、目標基準年になかった名古屋営業所2,387kWが追加されたことも重なりこの結果となった。技開研の電気使用量を下げる対策を講じる必要がある。
③ガソリン/軽油使用量	総ガソリン使用量は、目標値に対して2.7%減の結果となり目標を達成しました。原因としてはコロナ禍における業務量減少による総車両走行距離4.7%減少および高燃費車への入れ替えによる燃費6.4%向上と考えられます。今後も高燃費車の導入推進と安全運転の励行によるエコドライブの推進を行う。
④廃棄物排出量(ゴミ)	廃棄物総量は、目標値に対して7.9%増となり目標を達成することができなかった。原因としては、コロナ禍における事務所内業務量の増加および福島ラボにおける分析業務の増加による目標に対して0.293ton増加と考えられます。
⑤総排水量(水道)	総排水量は、目標値に対して34.1%増となり目標を達成することができなかった。原因としては、技開研37.5%増、福島ラボ32.6%増であり、業務量および業務内容の変動によるものである。
⑥コピー用紙使用量	総コピー紙使用量は、目標値に対して5.4%減となり目標を達成することができました。技開研において目標値を51,000枚減となり主要因である。今後も両面コピーの推進やペーパーレス化を進める。
⑦トルエン使用量削減	トルエン使用量は、目標値に対して51.5%増となり目標を達成することができなかった。原因としては、コンクリート分析業務および廃止業務増加であり業務形態の違いによるものである。
⑧グリーン購入の推進	グリーン購入は目標値に対して6.1ポイント上まる結果となり、目標を達成することができた。購入金額については昨年度実績とほぼ同額であることから環境負荷低減意識への関心が高まっている。今後もより一層グリーン購入割合を増加して行く。
⑨各所環境負荷データ集計	継続的なデータ収集と正しい記録に努める。
⑩不適合製品件数 (報告書・証明書のトラブル等の件数)	報告書における記載ミスが3件発生しています。人為的ミスなので是正対策を講じて今後同じミスを起こさないようにします。
⑪環境関連法規等	報告された事例はありませんでした。
⑫実施体制	特に問題なし

### 見直しについて

二酸化炭素総排出量は目標値に対して、0.4%増の結果となりましたが、本年度より名古屋営業所が事業所として基準年より追加されたことが原因として上げられる。但し各環境負荷項目の中で環境負荷の高いガソリン使用量が目標値に対して2.7%減となっているのは、全体の走行距離の減少と車両燃費向上によるものであり、特にエコカーへの切り替えが順調に進んでいて次年度以降も進めていく必要がある。基準年については、追加営業所を反映したものに変更を検討すべきである。